

CDE-CHIBA NEWS LETTER

内 容

- ◇ 理事あいさつ・CDE-Chiba 種別人数
- ◇ 糖尿病網膜症実態調査について
- ◇ CDE-Chiba 情報・予定
- ◇ 論文の紹介・コラム

NO. 2

2022⁴
April

試験小委員会より 理事 江本 直也

千葉県糖尿病対策推進会議では、CDE-Chibaの資格を認定するにあたり資格認定試験を行なっています。2012年から毎年1回、会場に集まっていただき講習と筆記試験を行なってきました。しかし、今回の COVID-19のパンデミックにより 2020年の講習と試験は中止せざるを得ませんでした。2021年は講習を Web上で受けていただき、試験だけはどうか会場で実施しましたが、従来から人数制限のある会場試験は問題だとして改革が望まれていました。そこで理事会で検討を重ねた結果、2022年度からは、会場試験をやめて Web試験とすることが決定されました。現在、Web試験について、試験小委員会準備しております。

CDE-Chiba
総数1243名
の種別人数

2022年4月現在
第9回認定試験
合格者を含む

I 種	人数	II 種	人数	III 種	人数
	1072		69		102
看護師	446	准看護師	26	事務	56
保健師	17	栄養士	3	クラーク	9
管理栄養士	207	健康運動指導士	6	看護助手	6
薬剤師	246	歯科衛生士	15	調理師	1
臨床検査技師	88	歯科技工士	1	調剤助手	1
理学療法士	67	視能訓練士	1	医師事務助手	1
		作業療法士	7	医師事務作業補助者	1
歯科医師	1	臨床工学技士	1	教員	1
		放射線技師	1	企業社員	15
		介護福祉士	6	学生	3
		柔道整復師	1	養護教諭	2
		健康管理士一般指導員	1	その他	6

CDE-Chibの方
からの寄稿募集中

お問い合わせ

〒260-0026 千葉市中央区千葉港 4-1

千葉県医師会館内

(一社) 千葉県糖尿病対策推進会議 事務局

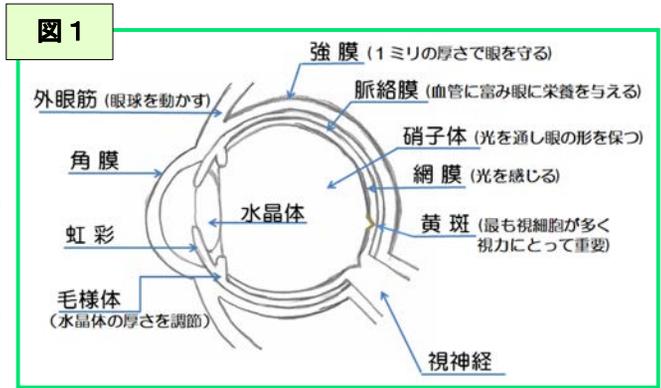
TEL : 043-239-5474 / FAX : 043-239-5461



www.dmchiba.jp

1) 糖尿病網膜症とは？

糖尿病合併症のひとつである糖尿病網膜症は、進行すると視力障害を引き起こし、生活面で多大な影響を与えます。糖尿病網膜症は、糖尿病特有の細小血管障害といわれ、網膜に酸素と栄養分を与える細い血管が傷害されることで起こります。初めは傷害された血管からの点状出血や血液中のたんぱく質や脂質が網膜に



沈着した“硬性白斑”と呼ばれる白い点が眼底写真上で出現します。進行すると、血管の閉塞により、血液循環が低下した領域や、眼底での出血が見られるようになります。このような変化は通常網膜の周辺部から起こるため、網膜の中央で視力に最も大切な黄斑付近に病変が及ばない限り、視力への影響は限定的です。網膜症が進行して、網膜が酸素欠乏状態になると、酸素を補うために異常な脆い血管“新生血管”が硝子体に現れるため、硝子体出血のリスクが高まります。また糖尿病では、黄斑部に浮腫などが見られる“黄斑症”も起き得えます。黄斑症を発症した場合は、視力に影響がでます。黄斑症は必ずしも進行した網膜症のみに見られるものではなく、発症初期の糖尿病でも起きることがあります。

2) 糖尿病網膜症は早期から起こりうる

成人の視力障害の原因は、1位が緑内障、2位が網膜色素変性症、3位が糖尿病網膜症です。糖尿病網膜症による視力障害は働き盛りの50歳台に多いのです。

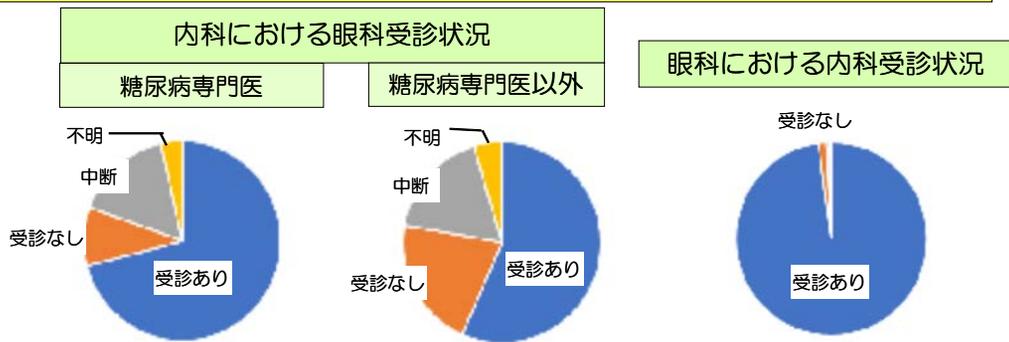
失明の原因疾患に占める糖尿病網膜症の割合は減少傾向にあります。その理由は、薬物療法を含めた内科的な治療の進歩により早期から血糖コントロールが良好に保たれる例が増えたことに加え、近年の眼科における治療法の進歩したことです。そのため適切な治療を適切な時期に受ける必要があります。内科を受診したすべての糖尿病患者が、定期的に眼底検査を受ける必要があります。

3) 糖尿病網膜症のアンケート調査

そこで、千葉県糖尿病対策推進会議では、千葉県における糖尿病患者の内科および眼科への受診状況を明らかにすることを目的として、調査を行いました。雑誌「糖尿病」63(4):163~171, 2020

千葉県内の病院・診療所に勤務する医師を対象に、アンケート用紙による調査を実施しました。糖尿病の診療を担当している医療機関 65施設、および眼科医療機関 16施設が参加しました。調査に参加した医師数は、内科系 74名、眼科 17名、そのうち糖尿病専門医は 46名、眼科専門医は 11名でした。登録患者総数は内科受診者 3619名、眼科受診者 367名でした。

図2 千葉県における網膜症に関連した受診状況



4) 調査結果

内科系担当医への調査全体では、眼科継続受診有りが66.6%、中断が16.5%、受診歴無しが12.7%でした。網膜症の合併に関しては、網膜症無しは57.1%、有りが24.5%でした。不明と未記入を合わせたものが18.4%あり、網膜症を合併していない症例が多かったのですが、眼合併症を把握し切れていない面がみられました。糖尿病専門医と専門医以外にわけた検討を図2に示します。糖尿病専門医において、眼科継続受診有りが70.9%、眼科受診歴無しが9.3%でした。専門医以外では眼科継続受診有りが56.5%、眼科受診歴無しが21.0%でした。また、眼科受診中断例はともに17%前後ありました。

眼科継続受診群と、受診中断および受診歴無し群とを比較すると、眼科継続受診中の患者の年齢(65.8歳)は、受診歴無しおよび中断例を合わせた群(63.8歳)に比べ有意に年齢が高くなっていました。

眼科への調査では、眼科通院中の糖尿病患者の77.4%が網膜症を有していることがわかりました。また、眼科通院中の94.8%に内科受診歴を認めました。

今回の調査から、千葉県においては糖尿病の治療を受けている患者のうち70%弱の患者が眼科も受診していましたが、30%程度は眼科に一度も受診したことがないか、あるいは受診を中断している状態でした。一方、眼科受診中の患者のほとんどは内科を受診していることが明らかとなりました。

5) 調査結果からわかること

今回の調査では、眼科受診を中断した例が17%程度認められましたので、内科系担当医が最初の眼科受診に安心せず、継続的に患者の眼科受診状況を把握し、定期的な受診を促すことが必要であることがわかりました。眼科を受診していない群において年齢が低いことがわかりました。この要因として、壮年層では仕事などもあり、症状がない状態で積極的に眼科に受診する動機が弱いのかもかもしれません。眼科の調査からは、眼科受診中の糖尿病患者ではほとんどが内科への定期受診を行っていました。内科医の立場からは、若年層への積極的な眼科受診を勧めることが必要なことが示唆されます。

6) CDE-Chibaの皆さんへの御願い

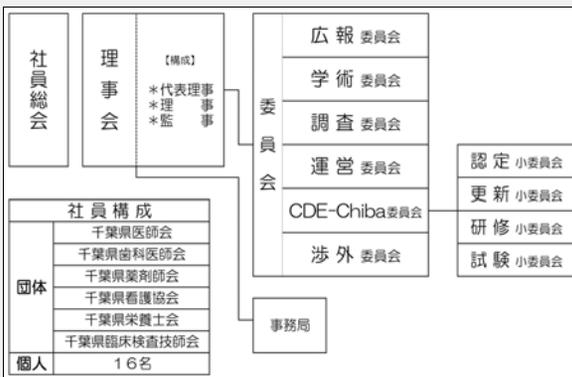
今回の調査結果から、千葉県において内科と眼科の両方に受診している糖尿病患者は少なくありませんが、十分とは言えないことがわかりました。糖尿病専門医に通院中の患者においても眼科受診をしていない患者さんが見られます。CDE-Chibaの方にも積極的に関わっていただく必要性が感じられます。

CDE-Chibaの方から患者さんに眼科受診の重要性をお話してください。一人でも多くの患者さんを視力障害から守っていただきたいと思います。CDE-Chibaの益々の活躍が期待されます。

CDE-Chibaの概要

理念	医療者を中心に、糖尿病を中心とする生活習慣病の予防・治療・療養に関わる資格認定によりサポートを広く養成するものです。
概要	千葉県糖尿病対策推進会議の中に委員会を設置し、認定制度規則を定めています。同会議はCDE-Chiba制度の運営に当たります。
認定期間	資格は5年間で有効とし、5年目に更新審査を受け、認定されれば資格が更新できます。
資格継続	本資格は千葉県糖尿病対策推進会議の会員である必要があります。その年会費は有資格者への研修会や刊行物などで還元されます。

千葉県糖尿病対策推進会議機構図



論文の紹介 橋本尚武

今回私たちは、血清フェリチンの値が、糖尿病発症に関連するかどうか旭中央病院予防医学センター受診者で15年間経過をみた論文を報告しました。2004年受診者1567名の中から繰り返し受診されたなかで正常耐糖能の381名うち男性150名について解析しフェリチン値>190ng/mlの方はハザード比3.97倍糖尿病の発症が見られることを報告しました(J Clin Med Res 2021;13:41)。

鉄過剰は酸化ストレス亢進を介してインリン分泌低下をもたらします。千葉県旭市近郊は、昔は井戸水でしかも鉄が多く含まれているとされてきました。地域の独自性に着目することで、フェリチン濃度を具体的に提唱できました。糖尿病発症予防介入の目安のひとつにしたいと考えています。この論文では決して、井戸水のせいで糖尿病がふえたとするものではありません。この点誤解されないようにお願いします。

糖尿病で急に眼が見えなくなる 櫻井 健一

増殖網膜症でも「自分は見えてるから平気」と思っている方が多いようです。目が見えなくなるような網膜剥離や硝子体出血が起きてしまうと、見えていた状態から突然「見えなくなる」ことも珍しくありません。まずは眼科に受診して、眼底の状態をチェックしてもらうことが重要です。

CDE-Chibaの方には「徐々に視力が低下するわけではない」ことや「見えていながら大丈夫、ではない」ことを患者さんに伝えて、眼科受診を勧めていただきたいと思います。

年間の予定

☆ (春)	CDE-Chiba スキルアップ研修会	2022年 4月23日
☆ (夏)	千葉県糖尿病対策推進会議夏季学術集会	2022年 8月予定
☆ (秋)	第9回 CDE-Chiba 認定試験	10月予定
☆ (秋)	CDE-Chiba フェスティバル 2022	10月予定
☆ (冬)	千葉県糖尿病対策推進会議講習会	2023年 1月予定

お願い：今後メールマガジンなども配信予定です。可能な方はメールアドレスを事務局までお届け下さい。